

山野草 ショウジョウバカマ

山地の湿った谷沿いの斜面や森林、ときに亜高山帯の万年雪の近くの湿った草原に見られる多年草です。花は径1cm程度で、花茎の先端に径3～5cmほどの球状にまとまってつきます。

とうめい news 2022.2.1 Vol.246

〒243-0034 厚木市船子237
TEL. 046-229-3377
発行者:河野 昌史
編集責任者:和田 博貴
印刷:(有)タイム21

ホームページアドレス <http://www.tomei.or.jp/clinic/>

とうめい厚木クリニック開設20周年に寄せて

TOPICS

とうめい厚木クリニック開設20周年おめでとうございます。初代院長としてお祝いの言葉を述べさせていただきたいと思えます。小生は1996年に三思会に入職し、当時は外科医、診療技術部長として東名厚木病院に勤務しておりました。

病院から外来部門を分離し、総合的なクリニックとして開設するプロジェクトの責任者を仰せつかり、1年余りの準備の元、2002年2月25日、とうめい厚木クリニックが開設されました。病院は入院患者様に対し多職種をもって総合的にお支える、一方クリニックは外来患者様に対し地域の窓口的役割をもってお支える。それぞれに異なる理念方針のもと効率的で丁寧な患者様対応を志す、これが当時の合言葉であったと思えます。

事務責任者として佐藤賢治氏、看護部責任者として芝由美子氏、放射線科責任者として藤原伸一氏等、各部門の責任者を任命させていただき、1年余りいろいろと真剣に、時には楽しく話し合いながら準備したことを思い出します。名前も最終的には「とうめい厚木クリニック」という無難なものとなりましたが、様々な奇抜な名前も出ていたと思えます。

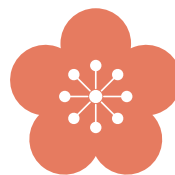
最初は現在の健診センター（TAMS）を改築しての出発でした。新しく電子カルテと完全予約制を導入し従来の病院の外来機能に加え、眼科を新設し、また今の総合診療科もその時から導入しました。設立当初は1日平均350名ほどの患者様を拝見していたと思えます。

そして2007年12月、とうめい厚木クリニックは現在の病院東側の土地に新築移転され生まれ変わりました。患者数も550名～600名となり、当時の3階建ての建物では十分な医療供給が不可能であるとの判断でした。新たに病院にはない小児科の新設やこの近隣にはないペインクリニックの拡充をしました。後に耳鼻咽喉科の招聘もでき、また西洋医学のみでは解決できない症候に対しては鍼灸マッサージ師に常勤いただき、西洋医学と東洋医学のコラボレーションを目指したりもしました。クリニック玄関上に設置した“幻”の巨大スクリーンも大事な大事な思い出です。



小生は約9年院長を務め、その後桐山誠一先生、山田拓司先生そして河野昌史先生に継承いただいています。地域医療の窓口としての発展とともに、このコロナ禍において地域に対する大きな役割を担っていただいております。

この地域においてなくてはならない存在として、河野先生のリーダーシップのもとますますの発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



社会医療法人社団 三思会
理事長 野村 直樹